

A県の訪問看護師が希望する フィジカルアセスメント研修会の実施方法に関する調査

藤井 徹也¹⁾ 山口 直己¹⁾ 栗田 愛²⁾
佐藤 美紀³⁾ 西尾 亜理砂³⁾ 長谷川 小眞子⁴⁾
箕浦 哲嗣³⁾ 酒井 一由⁵⁾ 中山 和弘⁶⁾
篠崎 恵美子²⁾

抄録

本研究は、訪問看護師がフィジカルアセスメント能力を修得・向上できる研修会を開催するための条件を明らかにするため、A県内の訪問看護ステーションに勤務する161名の看護師を対象に郵送法で質問紙調査を実施した。80名(回収率49.7%)から返信があり、回答の一部に未記入があったものを除き、71名を分析対象とした。研修会の形態希望は講義(69.0%)、モデルなどの演習(71.8%)であった。研修時間は2時間(31.0%)、3時間(22.5%)の順で多く、開催回数は2～3回(84.5%)、開催期間は3ヶ月以内(45.1%)が最も多かった。希望の曜日は、全体では土曜日が76.1%で最も多く、単独施設は日曜日、付属施設は平日の午前または午後の希望が有意に多かった。会場までの移動時間は60分以内(69.0%)であった。よって、この条件を満たした研修会を計画することが望ましい。さらに効果的な内容にするためには、参加予定者に希望内容を確認して計画することが必要である。

キーワード (Key Word)

訪問看護師 研修会 訪問看護ステーション フィジカルアセスメント

-
- 1) 豊橋創造大学保健医療学部看護学科
Toyohashi Sozo University School of Health Sciences Department of Nursing
 - 2) 人間環境大学看護学部看護学科
University of Human Environments School of Nursing
 - 3) 愛知県立大学看護学部
Aichi Prefectural University School of Nursing Welfare
 - 4) 福井県立大学看護福祉学部
Fukui Prefectural University School of Nursing & Health
 - 5) 藤田医科大学
Fujita Health University School of Medical Science
 - 6) 聖路加国際大学看護学部
St. Luke's International University College of Nursing

I. はじめに

2006年度の医療制度改革で在宅医療の推進が打ち出された。また、2000年頃より訪問看護における在宅ケアの推進は社会的急務となっている（松山，2001）。このような状況から、柄澤（2012）は、医療依存の高い療養者など、重度で様々な課題を持つ在宅療養者に対する訪問看護のニーズが高まってきたことを報告している。訪問看護師は、在宅において一人で利用者のフィジカルアセスメントを実践しなくてはならないため、高度なフィジカルアセスメント能力が求められている。岡本（2013）は、わが国における臨床看護師のフィジカルアセスメント能力の向上を図ることやそのための教育環境を整えることが必要と述べている。このような状況から、岡本（2013）はフィジカルアセスメントの遠隔授業を通して、対面式授業と遠隔授業を学習内容に合わせて組み立てることを課題として挙げている。このことは、フィジカルアセスメントの研修では、e-ラーニングのような遠隔授業だけでなく、演習としての実践も必要であり、対面的な教育が必要であることを示している。

しかし、柄澤ら（2011）は、訪問看護ステーションの90%の管理者が、職場外研修の支援の困難さを訴えており、その理由として、勤務にゆとりがないことや、日程の調整が難しいことを挙げている。一方、スタッフにおいても管理者と同様の理由で79.8%が困難を訴えていた（柄澤ら，2012）。また、五十嵐（2010）は、感染管理の研修において看護協会や協議会等の研修会に参加している訪問看護ステーションが16%であることを報告している。これらのことから、日常の業務に支障なく、参加できる条件を明確にする必要があると考える。これまでのフィジカルアセスメント研修会に関する先行研究では、受講する訪問看護師の参加可能な条件について述べられた研究は見当たらない。

今回は、訪問看護師がフィジカルアセスメント研修会を受講する際に必要な条件について調査を行った。また、訪問看護師に対する研修会は、都道府県単位での看護協会や訪問看護ステーション連絡協議会などで行われることが多いと捉えて、A県の実態調査とした。

II. 研究方法

1. 研究対象

対象は、A県訪問看護ステーション連絡協議会登録事業所に勤務する訪問看護師161名とした。A県は都市部と山間部を有しており、交通の条件などに違いがあるため対象とした。

2. 調査方法・期間

A県訪問看護ステーション連絡協議会登録事業所の施設長に研究依頼をした。その後、承諾の得られた施設長へ依頼書、自由記述式質問紙、返信用封筒の一式を郵送し、対象となる訪問看護師へ配布を依頼した。記入後の質問紙は、対象者各自で投函を依頼した。調査期間は、2018年3月～6月だった。

3. 調査内容

調査内容は、訪問看護師の背景として、看護基礎教育課程、勤務する施設の設置主体、施設の規模、フィジカルアセスメントの学習経験の有無とその学習方法、勤務形態、看護師（助産師・保健師経験含む）経験年数、訪問看護師経験年数の7項目とした。フィジカルアセスメント研修会の内容は、研修会の必要性、希望する研修会の形態や、施設または自宅から研修会場までの移動時間、研修会の回数、研修会の開催期間、研修会の開催時間、参加可能な曜日、研修会への参加希望の有無の8項目とした。

4. 分析方法

各質問項目の記述集計により全体の把握を行った。設置主体が単独型の場合は自施設での研修会の開催が困難と考え、勤務する施設の設置主体で病院の部門・病院附属や協会立などの併設型施設（以下：附属施設）と営利法人など単独の施設（以下：単独施設）に分け、クロス集計を行った。その後、下記の項目間の差を χ^2 検定で求めた（有意水準は < 0.05 ）。「勤務する施設の設置主体（附属施設・単独施設）」・「施設の規模」・「勤務形態」の3項目を説明変数、フィジカルアセスメント研修会の内容「研修会の形態」・「施設または自宅から研修会場までの移動時間」・「研修会の回数」・「研修会の開催期間」・「研修会の開催時間」・「参加可能な曜日」の6項目と「フィジカルアセスメントの学習経験の有無」を目的変数としてその関連を確認した。また、「フィジカルアセスメントの学習経験の有無」を説明変数、上記のフィジカルアセスメント研修会の内容の6項目を目的変数として関連を確認した。さらに、「勤務する施設の設置主体（附属施設・単独施設）」・「施設の規模」を説明変数、「フィジカルアセスメントの学習方法」の選択肢の「施設外研修会」・「施設内研修会」を目的変数として関連を確認した。データ解析にはSPSS Ver.25.0を用いた。

5. 倫理的配慮

施設の代表者に研究趣旨、方法、倫理的配慮を文書で説明し依頼した。対象者には、質問紙は無記名であること等、プライバシー保護を保証した。また、研究への参加は自由意志であり、参加の有無や回答内容により職業上の不利益は生じないことを文書で説明し、回収をもって同意を得た。なお、本研究は豊橋創造大学研究倫理審査委員会の承認を得て実施した（承認番号：H2017015）。

Ⅲ. 結果

質問紙の回答は80名(回収率49.7%)であった。うち、背景に複数の未記入がある者および研修会の必要性、参加希望の有無が未記入の者を除いた71名(有効回答率88.8%)を分析対象とした。

1. 訪問看護師の背景とフィジカルアセスメント研修会の条件

1) 訪問看護師の背景 (表1)

対象者の看護師経験年数は平均19.8(SD=9.2)年、訪問看護師経験年数の平均は6.0(SD=5.2)年であった。看護基礎教育修了課程は、専門(専修)学校3年課程46名(64.8%)、専門(専修)学校2年課程18名(25.4%)、短期大学5名(7.0%)、4年制大学2名(2.8%)であった。所属している施設の形態は、単独の施設が34名(47.9%)、病院附属が29名(40.8%)であった。施設の規模は、6～10人が32名(45.1%)、16人以上が16名(25.4%)、5人以下が15名(21.1%)であった。勤務形態は、57名(80.3%)が常勤であった。フィジカルアセスメントの学習経験の有無は、60名(84.5%)がありと回答し、フィジカルアセスメントの学習方法は、施設外研修会が34名(47.9%)、施設内研修会が23名(32.4%)、基礎教育課程で学んだ者が21名(29.6%)であった。

表1 訪問看護師の背景

n=71

項目	名(%)
臨床経験年数	
看護師年数	19.8(SD=9.2)
訪問看護師年数	6.0(SD=5.2)
看護基礎教育修了課程	
専門(専修)学校3年課程	46(64.8)
専門(専修)学校2年課程	18(25.4)
短期大学	5(7.0)
4年制大学	2(2.8)
所属している施設の形態	
単独の施設	34(47.9)
病院附属	29(40.8)
病院	1(1.4)
看護協会立、医療法人、株式会社	6(8.5)
未記入	1(1.3)
施設の規模	
5人以下	15(21.1)
6人～10人以下	32(45.1)
11人～15人以下	6(8.5)
16人以上	18(25.4)
勤務形態	
常勤	57(80.3)
パート	14(19.7)
PA学習経験の有無	
有	60(84.5)
無	11(15.5)
PA学習方法(重複回答)	
基礎教育課程	21(29.6)
施設外研修会	34(47.9)
施設内研修会	23(32.4)
独自	6(8.5)
その他	1(1.3)

PA:フィジカルアセスメント

2) フィジカルアセスメント研修会の条件 (表 2)

研修会の必要性は、71名(100%)が必要と回答していた。希望する研修会の形態は、講義が49名(69.0%)、参加者同士の演習が33名(46.5%)、モデルなどの演習が51名(71.8%)、e-ラーニングが14名(19.7%)であった。1回の研修時間は、2時間が22名(31.0%)、3時間が16名(22.5%)、5時間が11名(15.5%)であった。研修会開催の回数は、2～3回が60名(84.5%)、4～5回が10名(14.1%)であった。開催期間は、3ヶ月以内が32名(45.1%)、4～6ヶ月が30名(42.3%)の順であった。希望の曜日については、土曜日が54名(76.1%)、日曜日が36名(50.7%)の順であった。施設または自宅から開催場所までの移動時間は、60分未満が49名(69.0%)、60～120分未満が15名(21.1%)、特に気にしない5名(7.0%)であった。フィジカルアセスメントの研修会には、70名(98.6%)が参加すると回答していた。

表2 フィジカルアセスメント研修会の条件

n=71

項目	名(%)	
	あり 71(100)	なし 0
研修会の必要性		
研修形態 （重複回答）	希望する	希望しない
講義	49(69.0)	22(31.0)
参加者同士の演習	33(46.5)	38(53.5)
モデルなどの演習	51(71.8)	20(28.2)
e-ラーニング	14(19.7)	57(80.3)
移動時間		
60分未満		49(69.0)
60分～120分未満		15(21.1)
120分～180分		2(2.8)
特に気にしない		5(7.0)
開催回数		
2～3回		60(84.5)
4～5回		10(14.1)
6回以上		1(1.4)
開催期間		
3ヶ月以内		32(45.1)
4ヶ月～6ヶ月		30(42.3)
7ヶ月～12ヶ月		9(12.7)
1回の研修時間		
90分間		8(11.3)
2時間		22(31.0)
3時間		16(22.5)
4時間		8(11.3)
5時間		11(15.5)
6時間		4(5.6)
その他*		2(2.8)
希望の曜日 （重複回答）	希望する	希望しない
平日の午前	13(18.3)	58(81.7)
平日の午後	17(23.9)	54(76.1)
平日の17時以降	11(15.5)	60(84.5)
土曜日	54(76.1)	17(23.9)
日曜日	36(50.7)	35(49.3)
研修会の参加	希望する	希望しない
	70(98.6)	1(1.4)

注)*:60分、休憩して半日または1日

2. 勤務する施設の設置主体別クロス集計（表3）

附属施設 36 名と単独施設 34 名の間で各項目について比較をおこなった。希望する研修の形態は、附属施設ではモデルなどの演習が 80.6% と最も多かった。単独施設では、講義の希望が 73.5% と最も多かった。施設または自宅からの移動時間では、附属施設（58.3%）・単独施設（79.4%）と 60 分以内が最も多かった。開催回数では、附属施設（77.8%）・単独施設（91.2%）ともに 2～3 回が最も多かった。開催期間では、附属施設は 3 ヶ月以内（47.2%）、単独施設は 4～6 ヶ月（47.1%）が最も多かった。1 回の研修時間は、附属施設では 3 時間（30.6%）、単独施設では 2 時間（32.4%）が最も多かった。希望の曜日は、土曜日が附属施設（75.0%）、単独施設（79.4%）と最も多かった。平日の午前および午後については、附属施設が午前（30.6%）、午後（41.7%）に比べ、単独施設では午前（5.9%）、午後（2.9%）と低かった。日曜日は、単独施設が 64.7% に対して、附属施設は 38.9% であった。施設の規模では、6～10 人が附属施設 47.2%、単独施設 41.2% と最も高かった。フィジカルアセスメントの学習方法では、施設外研修会が附属施設 52.8%、単独施設 44.1% と最も多かった。施設内研修会は、附属施設 38.9%、単独施設 26.5% であった。

表3 設置主体別の比較表

項目	設置種別	附属施設 n=36 名(%)	単独施設 n=34 名(%)		
臨床経験年数					
看護師年数		20.6(SD8.0)	18.9(SD10.4)		
訪問看護年数		5.5(SD4.9)	6.2(SD5.5)		
研修会の必要性					
	あり	なし	あり	なし	
	36(100)	0	34(100)	0	
研修形態 (重複回答)					
講義	希望する	希望しない	希望する	希望しない	
	23(63.9)	13(36.1)	25(73.5)	9(26.5)	
参加者同士の演習	16(44.4)	20(55.6)	17(50.0)	17(50.0)	
モデルなどの演習	29(80.6)	7(19.4)	22(64.7)	12(35.3)	
e-ラーニング	7(19.4)	29(80.6)	7(20.6)	27(79.4)	
移動時間		希望する	希望する		
60分未満		21(58.3)	27(79.4)		
60分～120分未満		10(27.8)	5(14.7)		
120分～180分		1(2.8)	1(2.9)		
特に気にしない		4(11.1)	1(2.9)		
開催回数		希望する	希望する		
2～3回		28(77.8)	31(91.2)		
4～5回		7(19.4)	3(8.8)		
6回以上		1(2.8)	0		
開催期間		希望する	希望する		
3ヶ月以内		17(47.2)	15(44.1)		
4ヶ月～6ヶ月		13(36.1)	16(47.1)		
7ヶ月～12ヶ月		6(16.7)	3(8.8)		
1回の研修時間		希望する	希望する		
90分間		3(8.3)	5(14.7)		
2時間		10(27.8)	11(32.4)		
3時間		11(30.6)	5(14.7)		
4時間		3(8.3)	5(14.7)		
5時間		6(16.7)	5(14.7)		
6時間		3(8.3)	1(2.9)		
その他*		0	2(5.9)		
希望の曜日 (重複回答)		希望する	希望しない		
平日の午前		11(30.6)	25(69.4)	2(5.9)	32(94.1)
平日の午後		15(41.7)	21(58.3)	1(2.9)	33(97.1)
平日の17時以降		7(19.4)	29(80.6)	4(11.8)	30(88.2)
土曜日		27(75.0)	9(25.0)	27(79.4)	7(20.6)
日曜日		14(38.9)	22(61.1)	22(64.7)	12(35.3)
研修会の参加		希望する	希望しない		
	希望する	0	33(97.1)	1(2.9)	
施設の規模					
5人以下		8(22.2)	7(20.6)		
6人～10人以下		17(47.2)	14(41.2)		
11人～15人以下		0	6(17.7)		
16人以上		11(30.6)	7(20.6)		
勤務形態					
常勤		33(91.7)	24(70.6)		
パート		3(8.3)	10(29.4)		
PA学習経験の有無		学びあり	学びなし		
	学びあり	0	28(82.4)	6(17.6)	
	32(88.9)	4(11.1)			
PA学習方法 (重複回答)		学びあり	学びあり		
基礎教育課程		11(30.6)	10(29.4)		
施設内研修会		14(38.9)	9(26.5)		
施設外研修会		19(52.8)	15(44.1)		
独自		3(8.3)	3(8.8)		
基礎教育課程機関					
専門学校3年課程		21(58.3)	24(70.6)		
専門学校2年課程		10(27.8)	8(23.5)		
短期大学		4(11.1)	1(2.9)		
大学		1(2.8)	1(2.9)		

注) 1. *:60分、休憩して半日または1日

2. PA:フィジカルアセスメント

3. 各項目間の関連 (表 4, 5, 6)

施設の設置主体と開催の希望曜日の「平日の午前」「平日の午後」「日曜日」に有意差を認め、
「平日の午前」「平日の午後」を希望する者が附属施設で、「日曜日」を希望する者が単独
施設で有意に多かった。他の χ^2 検定結果では、有意差は認められなかった。

表4 施設の設置主体と開催の希望曜日 (平日午前)

	平日の午前	
	希望する	希望しない
附属施設	11	25
単独施設	2	32

p=.008

表5 施設設置主体と開催の希望曜日 (平日午後)

	平日の午後	
	希望する	希望しない
附属施設	15	21
単独施設	1	33

p=.000

表6 施設設置主体と開催の希望曜日 (日曜日)

	日曜日	
	希望する	希望しない
附属施設	14	22
単独施設	22	12

p=.031

IV. 考察

訪問看護師がフィジカルアセスメント研修会に参加するために必要な条件について、A県の訪問看護師に自記式質問紙にて実態調査を行った。

今回の調査では、回答者の 84.5% がフィジカルアセスメントの学習経験があった。学習方法は施設外研修会が 47.9%、施設内研修会が 32.4% であり、看護基礎教育課程 (29.6%) より多かった。また、フィジカルアセスメントの研修会は、回答者の全員が必要と考えていた。竹原 (2015) は、救命救急センターおよび救急外来の看護師を対象とした結果で、90% 近くの者がフィジカルアセスメントを学んでおり、今回の結果と同様に約 60% が看護師になってから研修会で学び、看護基礎教育課程の約 30% より多かったと報告している。そして、フィジカルアセスメントを主体的に修得していくものと捉えている。また、小川 (2013) は、文献検討に

より、キャリアを高める支援について満足していない報告を示している。このことから、卒後継続教育の一環として、フィジカルアセスメントを学ぶための研修会や勉強会が必要であり、主体的に学ぶことができる条件を明確にする必要がある。

訪問看護師はフィジカルアセスメント研修会で、約7割が講義およびモデルなどを活用して学びたいと回答していた。これは、附属施設と単独施設でも同様な傾向であった。訪問看護師は、実践を通して、正確なフィジカルイグザミネーションの手技の修得や現場で出会う幅広い状態についてアセスメントできる能力の獲得が必要と捉えていると考えられる。シミュレーターなどを活用することで、必要な観察や判断などのフィジカルアセスメントを有効に学習することができ、フィジカルアセスメントの能力向上に繋がるとされる(石川, 2015)。このことから、講義のみでなくモデルやシミュレーターを用いた演習を含めたプログラムが有効と考える。

1回の研修時間は、2時間が約30%と最も多く、次いで3時間が約20%であった。前述した講義とシミュレーターの演習を2時間または3時間で展開できる研修内容が有効であると考ええる。また、大学の授業時間を参考とすると3時間の学習方法では、休憩を取り入れた展開が必要と考える。開催回数は、2～3回が約85%と最も多かった。このことは、フィジカルアセスメントをはじめて学ぶ看護学生とは違い、具体的な内容で限定して参加したいと考えていることが予測される。そのためには、研修を企画する側が一般化した内容を実施するのではなく、事前に対象となる訪問看護師へ希望の学習内容を確認した後に研修内容を組み立てた方がよいと考える。

開催期間は、附属施設の訪問看護師は3ヶ月以内が47.2%と最も多く、単独施設の訪問看護師では4～6ヶ月が47.1%と最も多かった。今回の結果では、施設の規模と開催期間には関連は認められなかった。一方で、単独施設の訪問看護師の方が日曜日の研修開催を有意に希望していた。飯田(2019)は、全国の訪問看護師の一日の平均訪問回数が 3.9 ± 0.9 回であり、訪問エリアは20～40kmにおよぶとしている。このことから、施設の日々の業務ため、一定の期間内の日曜日を活用して2～3回を4～6ヶ月に分けて研修会に参加することを希望していると予測する。附属施設の看護師は、平日の午前および午後に研修を希望する者が有意に多かった。また、施設内研修会も単独施設よりも多かった。このことから、勤務時間内での研修会であるため自分の業務を調整しやすく、そのため3ヶ月以内の2～3回の研修参加が可能と考えていると予測される。しかし、今回は対象の訪問回数や業務の移動距離、その他の業務内容について調査していないため明確にはできない。また、全体では土曜日の希望が最も多かった。このことから、開催する曜日は、参加者の所属を考慮し決める必要がある。

施設または自宅から研修会場までの移動時間では、約70%が60分以内を希望していた。訪問看護師を対象とした様々な研修会についての先行研究では、開催場所までの移動時間、参加率などの報告はない。今回の結果から、研修会は施設または自宅から60分程度の移動距離の訪問看護師を対象とすることが望ましいと考える。そのためには、都道府県や各訪問看護ステーション連絡協議会などは、研修会について都道府県単位でなく、開催する所在地からおおよそ60分以内で移動できる範囲を1つのブロックとして活動するとよいと考える。さらに松原(2014)の報告のとおり近隣のステーションで協力し合い研修会を企画することが有効と考える。

今回の結果では、研修会に98.6%が参加を希望していたため、本研究で明らかになった条件を満たす研修会を企画することは、訪問看護師がフィジカルアセスメント研修会に参加するには有効と考える。

本研究によりフィジカルアセスメント研修会の受講に必要な条件を明らかにすることができたが、1県の71名の訪問看護師が対象であったことや6人以上が勤務する施設の対象が約80%であったため、今後は、複数の都道府県の訪問看護師へ調査を行い検討する必要がある。同時に明らかにした条件での研修会についての評価を確認する必要があると考える。

V. 結語

本研究において、訪問看護師が希望するフィジカルアセスメント研修会の条件について、以下のことが明らかになった。

1. 研修会は、講義とモデル・シミュレーターの演習を中心とする。
2. 研修会参加予定者に事前に希望内容を確認し、1回2～3時間として2～3回の研修をする。
3. 参加者が施設または自宅から60分以内で移動できる会場とする。
4. 曜日については、単独施設が日曜日、付属施設は平日の午前または午後の希望が有意に多く、全体では土曜日の希望が最も多かった。このことから参加者の所属を考慮し開催する曜日を定める必要がある。

<引用文献>

- 五十嵐久人, 訪問看護ステーションにおける感染管理対策の現状と課題, 山梨大学看護学会誌, 8(2), 2010, 39-44.
- 飯田苗恵, 鈴木美雪, 塩ノ谷朱美, 他, 地域包括ケアシステムにおける訪問看護ステーションの経営状況と事業所特性及び地域特性, 経営管理との関連——全国と群馬県の比較——, 群馬県立県民健康科学大学紀要, 14, 2019, 19-34.
- 石川幸司, 中村恵子, 菅原美樹, フィジカルアセスメント能力を向上させるシミュレーション学習の効果——準実験研究による分析——, 日本救急学会雑誌, 17(2), 2015.
- 柄澤邦江, 安田貴恵子, 御子柴裕子, 他, 長野県の訪問看護師の現任教育の現状と学習ニーズ (第1報) ——管理者に対する調査の分析——, 長野県看護大学紀要, 13, 2012, 17-27.
- 柄澤邦江, 安田貴恵子, 御子柴裕子, 他, 長野県の訪問看護師の現任教育の現状と学習ニーズ (第2報) ——スタッフに対する調査の分析——, 長野県看護大学紀要, 14, 2012, 25-34.
- 小川有希子, 山崎律子, 訪問看護ステーションで働く訪問看護師の労働条件に関する意識——過去20年の文献検討——, 福岡県立大学看護学研究紀要, 10(2), 2013, 83-90.
- 岡本恵里, 白石葉子, 佐藤智子, 他, 臨床看護師を対象としたフィジカルアセスメント教育方法の検討, 三重県立看護大学紀要, 17, 2013, 17-26.
- 松原みゆき, 訪問看護ステーション管理者のやりがいと困難を構成する要素, 日本赤十字広島看護大学紀要, 14, 2014, 37-46.
- 松山洋子, 訪問看護ステーションに勤務する看護婦のストレスの検討, 岐阜県立看護大学紀要, 1(1), 2001, 27-34.
- 竹原則子, A県内のクリティカルケア看護領域に勤務する看護師のフィジカルアセスメントに関わる実態調査, 新潟医学会雑誌, 129(11), 2015, 681-691.